

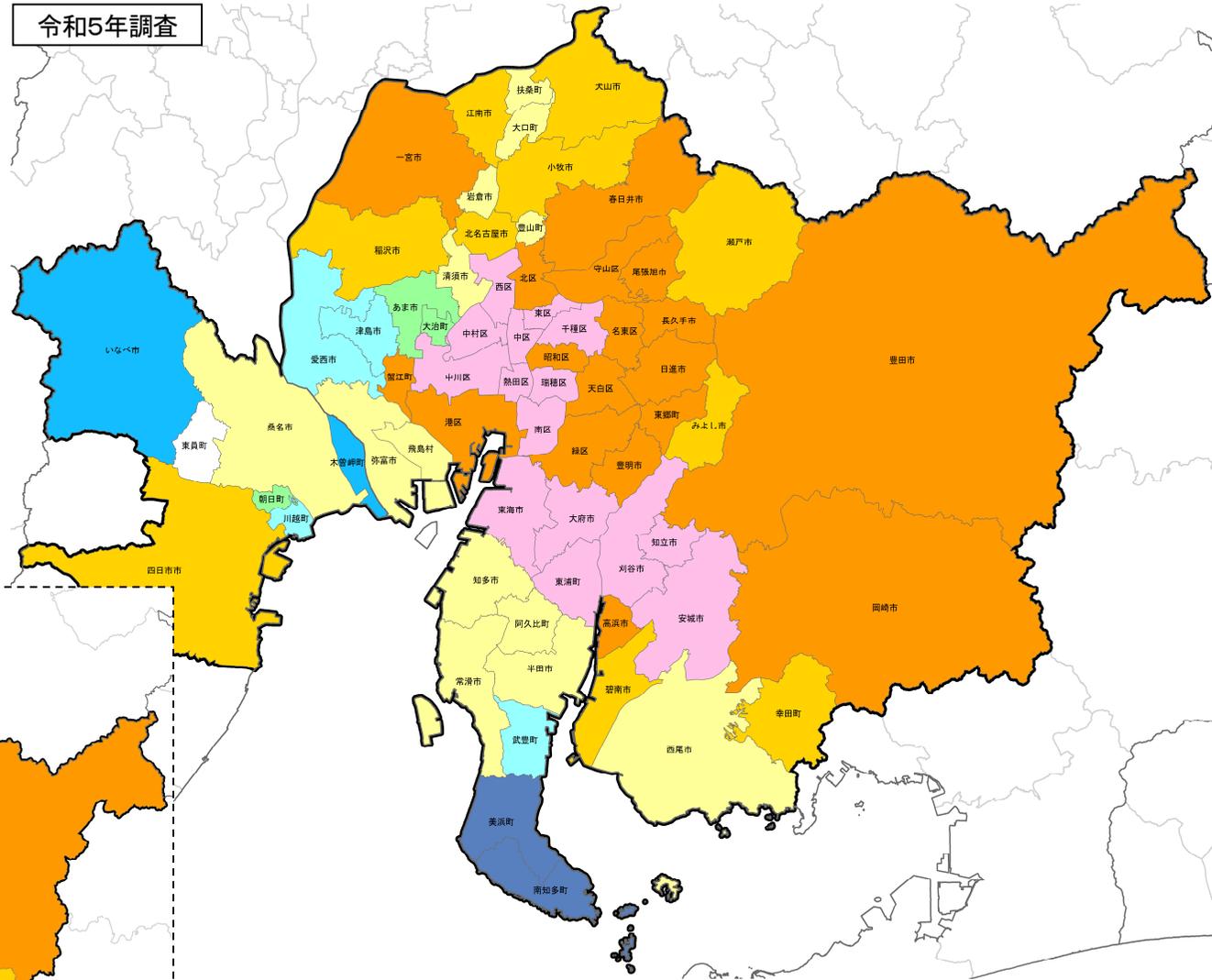
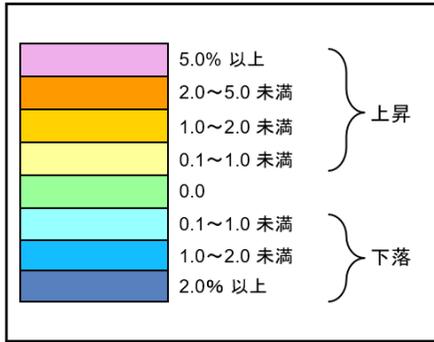
6. 名古屋圏の商業地

※（ ）は前年変動率

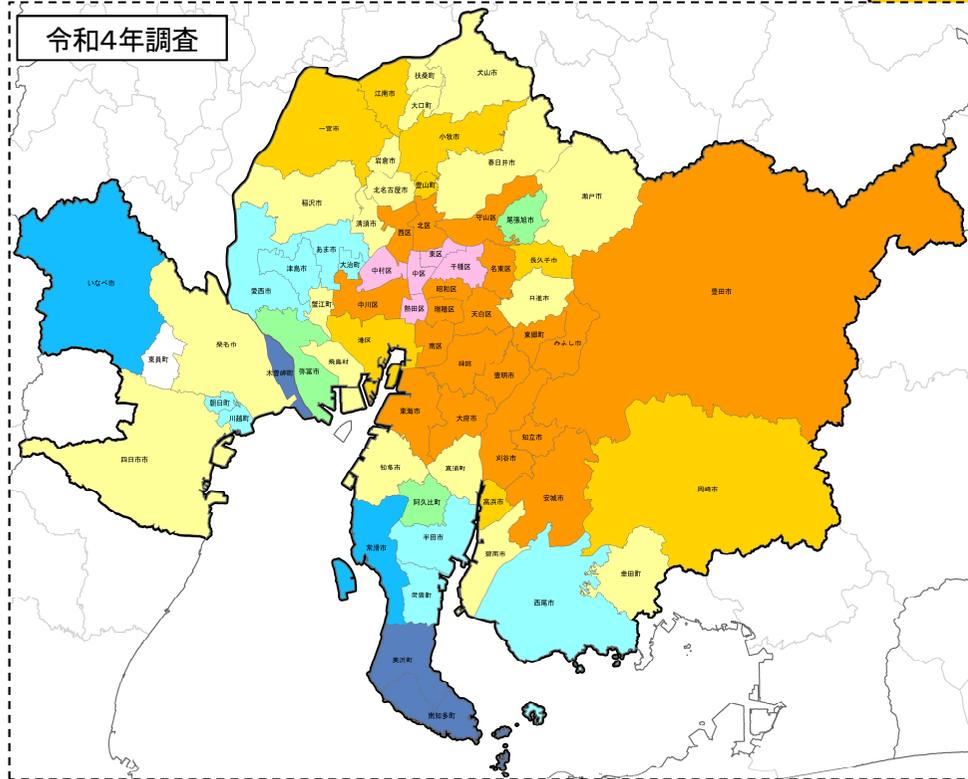
愛 知 県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 名古屋市では、5.3%上昇（4.4%上昇）。全16区で上昇となった。13区で上昇率が拡大、3区で上昇率が縮小した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心部では、中区で5.6%上昇（5.9%上昇）、中村区で6.2%上昇（5.4%上昇）、東区で7.0%上昇（6.3%上昇）、熱田区で7.3%上昇（5.7%上昇）となった。 ・ 名駅周辺や栄・伏見地区では大規模開発計画等への発展期待感もあり地価上昇が継続している。 ・ 駅周辺など利便性良好な地区では賃貸マンション需要との競合等により、総じて上昇率が拡大している。 ○ 知多北部地域の東海市、大府市、東浦町や西三河地域の刈谷市、安城市、知立市などでは、店舗需要の回復や住宅需要の高まりによる住宅地価格の上昇を受けて、地価上昇が継続している。 ○ 知多南部地域では、過疎化・高齢化による需要減退による下落傾向が継続している。
三 重 県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 四日市市では、1.2%上昇（0.3%上昇）近鉄四日市駅前地区などの利便性の高い中心部の商業地ではマンション用地の需要や、バスタ四日市等駅前再開発への期待感もあり、地価の上昇が継続している。 ○ 桑名市では、0.9%上昇（0.1%上昇）近鉄桑名駅前地区の駅周辺整備事業の進展に伴い、今後の発展性に対する期待感から地価の上昇が継続している。

市区町村別の状況（名古屋圏・商業地）

令和5年調査



令和4年調査



※圏域内の白色部分は、継続地点が設置されていない市区町村である。